

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

日 時	令和6年5月30日(木)午前10時～午前11時30分
場 所	羽島市役所301会議室
出席者	(生涯学習都市推進会議委員)出席者13人(欠席者7人) 松井 聡 委員(市長) 前田 京子 委員(羽島中央生活学校代表) 坂田田壽子 委員(社会教育委員代表) 森山 健 委員(小中学校代表) 栗本 善彦 委員(自治委員会代表) 近藤かよ子 委員(学識経験者) 小林 美雪 委員(学識経験者) 石黒 恒雄 委員(副市長) 森 嘉長 委員(教育長) 三輪 弘司 委員(健幸福祉部長) 熊崎 房子 委員(健幸福祉部子育て・健幸担当部長) 加藤 光彦 委員(産業振興部長) 田谷由紀子 委員(公募委員) (事務局) 伊藤佳津子 市民協働部長 岩田 睦巳 生涯学習課長 富田 修平 市民協働課長 柴田 泰宏 スポーツ推進課長 高橋 浩之 学校教育課長 浅野 貴久 危機管理課長 安田 圭祐 生活環境課長 大橋 寛子 生涯学習課主幹 吉田 智紀 同課係長 牛田紗耶香 同課主任
内 容	1 委嘱書交付(机上交付) 2 会長あいさつ 3 意見交換 羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画に基づく令和6年度の主な取り組みについて
	・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明

令和 6 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

1. 家庭 P3		
	(会長)	羽島市も合計特殊出生率が低い状況にある。子育て・健幸課の施策を説明願う。
	(委員)	伴走型相談支援では、妊娠届出時に保健師が心配事はないかなど聞きながら、共に出産子育てに向けて取り組みましょうというところからスタートする。そこに併せて、経済的支援である出産応援ギフトの申請をいただく。 妊娠 8 ヶ月時にはアンケートをとり、様子をお聞きする。相談希望者には連絡を取り、相談やサービスの提案を行い、生後 2 ヶ月頃までには専門職による赤ちゃん訪問もある。子どもの成育を聞き併せて経済的支援である子育て応援ギフトの申請をいただいている。このように折々で接点を持ち支援を行っている。
	(会長)	子育てや出産の経験のある年齢層の保健師への相談を希望する声を受け、若年層とベテラン層の間の年齢層の人材の不足に対し職員募集を行い、充足をしている。
	(委員)	子育て世代とは、何歳までをベースとして考えればよいか。また、経済的支援である応援ギフト 5 万円は、どのような形で市民に展開しているのか。
	(委員)	母子保健法に基づくと、就学前以降の子どもを育てる世代となるが、児童福祉法では 18 歳までである。様々な解釈があるが支援は 18 歳までを対象ととらえる必要がある。 応援ギフトは令和 4 年度以降の妊娠届出分、あるいは出生分から始まっておりホームページ等で周知している。必要な方には妊娠届出時など接する折に情報提供を行っている。
	(委員)	ブックススタート事業だが、羽島市では 4 ヶ月健診時に実施している。長く推進していただいており、とても良い事業であるから今後も続けてほしい。また、ボランティアの育成にも目を向けていただきたい。
2. 青少年 P4		
	(委員)	今年度は、教育相談の充実に保護者も含めて支援をと明確に記された。新聞で目にしたが、他人の子どもの不登校には心が揺らがないが、我が子の不登校に焦らない保護者はいないとあった。自分事と考えると、保護者も含めた支援を重点化されたことを、高く評価したい。

令和 6 年度第 1 回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

(事務局)	多様な居場所づくりを考えるうえで、保護者の力なくして、成り立たないと考えている。不登校になった子どもたちの悩みを聞くと同時に、保護者とも懇談を重ねて保護者と子ども両方の思いを聞くことで、どのように生活することがベストかを考えた対応を続けていきたい。
(委員)	適応指導教室は、他でも開設する予定があるか。
(事務局)	今現在予定はないが、各学校に相談室が設けられており、そちらでの対応は引き続き行っていきたい。
(会長)	対面的な新たな取り組みなど発言を願う。
(委員)	4 月に適応指導教室こだまを福祉ふれあい会館 2 階に移転し、充実した教室を展開することができた。また、適応指導教室のぞみを小学校内に作った理由は、多様な学びに対応できるからである。ビオトープでは植物や魚を採取し飼育や調べ学習ができ、そのような学びの深まりは非常に効果的である。また子ども同士の学びが成立していると感じる。 子どもをとりまく保護者も含めた支援についてのご意見、また、子育て世代とは何歳までかとの質問があった。不登校の子どもたちは義務教育で完結するわけではなく、卒業後もハンディキャップを抱えている。例えば高校に進学しても途中で退学した場合、どう支援していくかは大きな課題である。特に日本は年齢主義であり、中学校において不登校で十分な学力が身に付いていなくても、例えば通信制や定時制学校へ進学した方がいる。しかし中途退学すると、学力が十分に身に付いていない状況で社会生活を送ることになる。 教育相談の充実に記される関係機関との連携というのは、ある意味福祉的な視点からも大変重要ではないかと認識している。
(会長)	適応指導教室の利用状況と今後の計画を説明願う。
(事務局)	令和 5 年度の利用者は適応指導教室こだま 22 名、のぞみ 21 名である。うち両方を使用する 6 名がおり、37 名の子どもが利用したとなる。 適応指導教室こだまは新しい環境が整い、のぞみや Room-HIKARI も活用しながら欠席した子たちが続けて足を運べる取り組みをと考えている。

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

(委員)	小中学校では、学校施設の中で教育相談のカテゴリーを持ち進めており、子育て・健幸課や関係機関との連携も非常に積極的、計画的に行っている。 学校では私塾の中等部や通信制中等部に通う生徒もいる。様々な居場所があるため、単純に不登校とか欠席といったカウントではなく、生徒やその保護者の様子も把握していかなければいけない。加えて、関係機関との連携の際、コーディネーター役を担う人材の発掘や確保、また資質の向上も必要になると考える。 子どもや保護者を見ていく必要性は学校においても十分認識をしており、様々なカテゴリーの相談が必要になるなか、コーディネーター役が増えることを望んでいる。 体験学習の充実においてゼロカーボンの取り組みがある。各学校においても考え進めており、まさに環境問題に対してともに学び取り組む機会である。生活環境課は、市の取り組みや、取り組みがゼロカーボンにどのようなつながるかなどのレクチャーを学校に発信する計画はあるか。SDGsの取り組みとの兼ね合いもあり難しく感じる。
(会長)	専門職員の拡充については、今年度の取り組みを踏まえ、次年度のスクールソーシャルワーカーの配置増について考えてまいりたい。 ゼロカーボンシティの取り組みでの児童生徒への周知について生活環境課は説明を願う。
(事務局)	毎年、児童向けに羽島市の環境という冊子を作り、各学校で活用いただいている。また、岐阜県環境教育推進員の制度があり、学校で授業を行うなどもできる。そういった情報について周知していきたい。
(会長)	過去に食べ物の水切りを学校で直接子どもたちにレクチャーした。SDGsやカーボンニュートラルに向けての事業の一環としてのリクエストがあれば、専門家を含め生活環境課で対応をと考える。
(委員)	ある会合で中学校の不登校が1割近くいると聞き驚いた。現在、羽島市内小中学校ごとに何名が不登校で困っているのか、トータルでもいいので教えていただきたい。 また、民生委員に情報は入っているか。

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

(事務局)	羽島市では昨年度、小中学校あわせて不登校が200名を超えた。こういった情報は生徒指導の会やいじめ不登校の会など、様々な場で周知しており、会に民生委員の代表者が出席されているので情報は伝わっている。ただ、全ての民生委員を集めて周知する場はないが、代表者から民生委員への情報共有をお願いしている。
(委員)	すべての民生委員が情報を得ているということではないのか。また、中学生のほうが不登校は多い状況か。
(委員)	不登校は小学生より中学生のほうが割合は高いが1割はいかない。
(委員)	主任児童委員の方たちは各学校の学校運営協議会に出席いただいております、各学校の実態はお伝えしている。
(会長)	民生委員・児童委員について健福祉部長は説明願う。
(委員)	民生委員・児童委員は市に約126名おり、そのうち児童関係を専門にする主任児童委員が設置されている。 主任児童委員は各町に2名、市内全体で20名の方がおり、主に子ども関係に対応している。各学校の会議に出席しており、主任児童委員以外の民生委員の方には、機会を通じて情報提供するよう努めていただいている。
(会長)	民生委員・児童委員の会に出席したが、とりわけ不登校の原因の大きなものとして、いじめやからかいがある。民生委員・児童委員では、過去に冊子を作られ、非常にわかりやすい資料の提供があった。情報伝達がいかに重要かというご意見にも繋がる。 健福祉部からも、全ての民生児童委員に情報が的確に伝わるような構築を願う。
(委員)	主任児童委員を経験した。私事だが、主任児童委員は子どものことで相談があれば極力学校に出向き、常に学校の先生方と相談しながら、委員2名で注意を払い動いていた。 月に1度は主任児童部会の定例会があり各地区の児童委員と交流を図りながら知識を得ている。 もう一つ、クラスがまとまらず困っていた時、主任児童委員に手助けの依頼があり、頻繁にサポートに入ったらクラスが落ち着いたという事例を聞いたのでお伝えする。

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

	(委員)	メタバースという仮想空間や学校でのタブレット活用などが進んでいるが、人が人として関わることは、目を見て言葉を交わすことからスタートし、また必ず目を見て会話をすることである。これを基本にして子どもたちの対応を忘れずに仮想空間やメタバースでの場を作っていただき、子どもが自分の気持ちを発信できるようにしてほしい。
	3. 地域における学び P5	
	(委員)	最近、地域の防災講習会に自分にできることは何かを学ぶため参加した。人は学んだときは覚えているが、数分後には何%かを忘れ、1ヶ月後には大半を忘れる。 実際に自分も学んだばかりだが、全て覚えているわけではない。講習会は何度も聞いて繰り返すことで頭の中に記憶ができる。 実際起きたときに何をすべきか、起きることを想定しながらどう対応すべきかを身に付けられたらよいと思うので、講習会など様々な企画を開催いただきたい。
	(会長)	過去に行政改革の一環で、行政課題についてのタウンミーティングを、各地域のコミュニティセンターで開催した。回を追うごとに参加人数が減少し、コロナ感染症が発生したこともあり、残念ながらタウンミーティングはここ数年開催をしていない。 ご意見にあったように防災、命を守る関係は最も重要な課題であるが、地域ニーズを含め見極めながら今後も自治会等々を通じてPRしていくのでよろしくお願いします。
	4. 生涯スポーツ P6	
	(委員)	数日前の新聞で部活動の地域移行は非常に広がっていることを目にした。竹鼻中学校は最初に進めており、素晴らしいと感じる。 課題は指導者の確保であると、学校運営協議会においても話題になるが、市の現状はどのようなようであるか。
	(事務局)	総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進課でバンクを作っておりそこからの紹介もあるため、現在のところは、子どもたちは充実した練習を行っている。

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

	(委員)	運動部活動における土日の活動は、地域移行にて量の担保はされている。変わったのはお金の動きであり、部活動に加えクラブにもお金が必要となると、お金の調整や誰が管理をするかは大きな課題になった。 もう一つは地域移行後の指導者の確保であるが、社会人コーチは各クラブ、部活動にある程度いたため、指導者の確保は難しくなかった。ただ、資質は問われておらず部活動の指導者も含め、資質への対応は非常に大きな課題である。スポーツ推進課では年1回の研修会や県の研修会とのタイアップなど、研修機会を設けていただいている。 これからの見込みだが、文化系も含め私的なクラブに塾と同様にお金を投じて入る子がいるなか、行政として公的な活動量の担保は非常に大事になってくる。市に総合型地域スポーツクラブがあることは本当にありがたく、文化系まで地域移行が進むとなると市内の生涯スポーツ、生涯学習における基盤が整っていくと、学校としても喜んでいる。 ただ、部活動からクラブを選び入っていくかは、ハードルがあるので、スムーズに移行するにはどのようにするのが良いか、大きな課題である。
	5. 文化 P6～P7	
	(委員)	小中学生の活動を見るとやはり運動が中心であり、そういった意味では、文化部活動は各学校の活動が十分に充実し、地域で展開されていく必要がある。文化部活動の地域移行により、年齢を問わず世代を超えた文化活動が市内で充実していく契機になればと思うところだが、指導者の問題、特に文化関係は流派や指導者のあり方は非常に問われる。今後子どもたちに関わる際に教育的配慮をもつなど、スポーツ・文化を問わず子どもたちの今あるべき状況について理解し、接していただくことが非常に重要である。 先ほど不登校について話が出たが、「不登校は問題ではなく、子どもたちの多様な学びの一つである」という認識になっている。例えば学校には来られないが、夕方の部活動には来る、あるいは平日は来られないけども土日の文化部活動には参加するという子がいる。子どもたちをどのようにスポーツや文化という学びで繋ぐかが大変重要になる。また、羽島市の文化活動における後継者不足という課題解消にも繋がるのではと期待している。

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

(委員)	昨年、中央中学校に和装教育で関わらせていただいた時、授業には入れない生徒が目生きとして浴衣の着付けに参加し、私達の講師の話を真剣に聞いていたのを思い出した。先ほど言われたように、様々な場で学ぶというのがまさにそうだなと感じた。 竹鼻祭も関わったが小学校の児童がお囃子を体験し発表する場を、祭りの中で設けていただいたことはすごく自信につながったと思う。後継者不足という話もあったが、少しでも次の未来へ繋げていく役目をできたらと日々活動している。 私事だが、孫が自分の思うことを母親に言えたことに、安心した。言えないときや何か違和感があったときは、目線を合わせ目や表情を見て、少しでも話してくれる環境を作ろうと心掛けている。それを自分の家族だけでなく地域共々できたらよいと感じている。
(委員)	今年は清流の国文化祭 2024 が岐阜県として開催される。一昨年はナンヤローネという、岐阜県全体の大きな文化人主催の事業があった。今年度、羽島市では何が行われるのか。
(事務局)	国民文化祭が岐阜県で開催される。市では全国の交流事業として、太鼓の祭典を10月20日に不二羽島文化センターで行う。出演団体は全国各地から35団体で、なかには台湾からの出演もある。9団体が岐阜県の団体で羽島市からは美濃の国羽島太鼓が出演される。 今年度は国民文化祭だけではなく全国高校総合文化祭も岐阜県で行われる。7月の終わりから演劇と吹奏楽の全国大会が行われる予定であり、全国各地から集まるため、羽島市としては協力をしていく次第である。
(委員)	竹鼻中学校では福寿と竹鼻町の両地区でお祭りに関わる方が、後継者育成や現在の人手不足で生徒たちに話をさせてほしいと、学校に来られる。 平方勢獅子の保存会や青年会議所、羽島の未来を考える会など、様々な団体や立場の方がおられる。適切な学年を考慮し、生徒たちにボランティア募集などを話してもらう。 生涯学習課では、例えば保存に関わる人たちとのコーディネートやパイプのようなシステムはあるのか。

令和6年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議(会議要旨)

	(会長) 産業振興部から回答願う。 (委員) 竹鼻祭りの山車は現在13両あり、世帯の少ない町内ではボランティア募集をして曳航を行っている。例年、企業や金融機関の方など様々な団体にお声がけしているが、今年は70周年記念として12両を曳航したためボランティア参加者が多く、市の職員も含め100名以上の募集となった。 (会長) 例えば竹鼻小学校などには、文化庁の後援を受け行う事業があるが、お聞きするに学校には、伝統的なものの保存、山車の曳き手や担い手の募集など様々な事柄が混じり届くと感じた。いずれも県の重要文化財で平方勢獅子、竹鼻祭山車の曳き手のカテゴリーは産業振興部で対応を願う。 文化庁の補助金については文化庁本庁に赴き交渉もしているが、年々極めて厳しい状況である。担い手不足については深刻に受け止めているが、竹鼻町の山車の特徴は、少ない世帯数の町で山車を保存しているということである。これは存続が極めて厳しい状況にあることは論を待たない。産業振興部所管で今後も進めていくので様々な接触等があれば情報の提供を願う。 イタセンパラ塾というのを積極的に継続している。それとともに、なまずサミットの開催要請がある。昔からなまずを食料としていた自治体を中心とするイベントで、国の声がけもあり埼玉県吉川市を皮切りとして開かれており、第1回に参加をしたことがある。現在、淡水魚サミットに置き換えることや、駅前フェスのあたりなど開催時期を含めて検討していきたいという案があるので紹介する。
	6. その他支援 P7
	(会長) 補足であるが、市制施行70周年事業として宝暦治水に関する歴史検証という形で、文化財審議委員を務めていただいている岐阜聖徳学園大学教授を招き、今ある新しい検証に基づく宝暦治水の実態の講演会も予定している。現在教育長と相談をしながら順次進めている。情報を広く市民の方々に周知する機会を持ちたいと考えるのでご承知おき願う。
	意見交換終了・閉会